つ意義は極めて大きい。興味ある一、二の文書を拾えば長谷雄文書に田原紹忍の養子親虎が南蛮宗に執心したため紹忍から『各別』（禁錮）されたことが見える。岐部文書に遣明船の中乗と船頭がケンカをしたため、大友義長が浦部衆に命じて停止させている事実がある。なお後者に八月節句に鉄が贈答されているのは、今日の砂鉄採取とも関連し、戦国時代の火器の普及や集団戦法と考え合せてすこぶる興味深いものがある。

本書の最大の特色は、主要人物の花押印章の編年を行つたことである。もちろん研究途上のものであるが、これほど精密なものは全国的に例のない画期的な企てで、今後わが国の史料編さん事業の進むべき一方向を決定するものであろう。

しかし本書にも全く欠点がないわけではない。花押印章編年一覧に、大友宗麟のローマ字印章や義統の花押、田原親家の黒印の洩れているのは惜しい。本文のはじめの方に花押番号をつけないのは、不統一の感は免れない。本文の文書名の食い違いも目立つ（もつともこれは目次で統一訂正したものである）。口絵写真と本文を対照しても苦干の誤があり、年代比定にも疑問のあるもあり、また誤植もないとはいえない。しかしこれらは魯魚の誤であつて、本書の価値を減ずるものではない。（A5版、頒価九七五円送料荷送費九五円）

八幡一郎
賀川光夫 著

早水台

国東半島の一角を占める縄文式早期の押型文土器の大遺跡である、速見郡日出町の東方もと川崎村大字西小深江の早水台に就て、著者が、昭和廿八年の七月と十一月の二回に亘り調査の結果を県教育委員会に報告したものを、同委員会が、大分県文化財調査報告書第三輯として出版したもので、第一章序説に筆を起し、二、地理学上より見たる早水台、三、遺跡の状況（三節）、四、集落址（二節）、五、土器—遺物一—（四節）、六、B類土器細論—遺物二—（五節）、七、石器—遺物三—（二節）、八、早水台遺跡調査総括

附録（一）、大分県下押型文土器出土遺跡の調査（二節）、附録（二）、大分県に於ける押型土器出土地名表、に分けて細論し、附するに図版十九葉、挿図百四を以てし、此の種研究物としては単に本県のみならず、広く学界に寄与する所大なるものがあると思う。尚県では一般希望者の為めに印刷所別府市森沢商店より上製本とし頒価壱千弐百円で配分させている。希望者は同印刷所又は著者賀川氏に申込めばよい。

昭和三〇、六、大分県教育委員会刊洋並製
B五判一九四頁非売　（立川）

田北学編

続大友史料　二

本書は前号渡辺氏が紹介した『続大友史料一』の続編で、豊前国旧宇佐、下毛二郡と、豊後国旧速見、大分二郡の旧家四十三家の文書が收載されている。内容の主なるものは、宇佐郡内の渡辺氏、元重氏文書と系図、下毛郡成恒氏、蛎瀬（かきせ）氏文書、速見郡長野氏、城内氏、大分郡では柞原八幡関係文書及び一万田氏文書等である。中には城内、日名子、柞原八幡、宮師文書等の如く、原本はすでに散佚し無くなつているものもあり、又蛎瀬や一万田文書の如く、原本は已に他府県に移つているものも載せられ、巻末には前巻同様十一頁に亘り、後学の者には一種の辞典用ともなる原寸大の花押や印判が載せられてある。なお本文の随所に傍註が加えてあり、年号の無い

ものには編者の該博なる学識により年代の考証が加えてある。

因に刊行をスピードアップするため今回より五拾部の限定とされたので、至急前金で直接大分市上野の編者田北氏又は同上野立川輝信宛申込まねば入手が出来ぬと思われる。

昭和三〇、八、一、別府大学刊金表紙製和綴B五判二三〇頁頒価六〇〇円送料別（立川）

北村清士著

詩情豊かな **岡城物語**

長い歴史を持ち、名曲「荒城の月」で一躍全国的に有名となつた岡城に就て先づ城の略年譜を叙し、続いて城の歴史、城址の地名と旧跡を、その造り方、昔の守備、秀吉も舌をまいた親次の勇武、吉松軒の岡城見聞記、中川歴代藩主の詠草及画聖竹田の詩、城址と滝廉太郎等々二拾八項目に分ち、岡城に関係する事項を余すところなく、各方面より一般向、特に若い十代の人に親まれる様に留意して書いてある。尚岡城の平面図、天正十四年の郷土諸城、本丸址の聖アンドレス・クリス外二葉計五枚の附録がある

昭和三〇、五、竹田市教育委員会刊、洋並製三五判一〇四頁、頒価一五〇円（立川）

松田正義編

JOIP **大分県方言の旅　第一巻**

NHKが全国の方言を録音して言葉の研究に役立つてると共に、亡びゆく方言の記録を行つているが、大分放送局でも、大分大学松田正義、糸井寛一両教授の協力を得て、方言調査委員会を組織し、県下三十ケ所位を調査して言葉の研究と方言の記録に努め、毎月才一、才二日曜日に十五分間、調査の結果に現地録音を入れて放送している。之を逐次再録して研究の資としたものが本書で、本才一巻には大分郡西庄内村と、玖珠郡北山田村の二村四回分を集録してある。

昭和三〇、六、大分放送局刊タイプ印刷、洋並製B五判四二頁、非売　（立川）

山本聴治編

史蹟耶馬溪青の洞門

耶馬溪が、山陽の図巻記、大橋乙羽の続千山万水等で、世に宣伝されたように、青の洞門も金龍和尚の山陰鑿道碑文や島芳国の羅漢寺の記、菊地寛の恩讐の彼方等に取材されてますます有名となつた。然るに今日禅海に関する記録が次才に散逸されつつあるのを遺憾とし、洞門が史蹟に指定され、又国定教科書に採録された当寺の古今の諸文献を再録して禅海の偉業を偲ぶべく書かれたものが本書である。

昭和三〇、三、二〇、九州観光タイムス社刊洋仮綴A五判三〇頁三〇円　（立川）

安部巌
藤内喜六著

別府の史跡

吉祥寺跡調査報告書

大友氏時の建立と称する別府乙原にあつた吉祥寺の跡を調査した別府市文化財調査委員である著者の報告書で、巻頭に当寺開山塔の写真を掲げ、（一）位置、（二）乙原地方の行政沿革、（三）吉祥寺関係の記録と遺物——1吉祥寺開山塔銘文以下十九項に分つて書いてある。（四）吉祥寺遺物の分布と吉祥寺関係の地名——関係史址地図、（五）考察——1創立と豊後臨済禅の問題以下四項、（六）吉祥寺年表、（七）結びの各項に別つて書い

てある。
昭和三〇、四、著者孔判洋仮綴製B五判三一頁非売　（立川）

安部　巌著
別府の史跡
寛永キリシタン宝塔調査報告書
附極楽寺址に就いて

大野利夫氏によつて発見された本宝塔に就ての著者の調査報告書で、先づ巻頭に之が写真を揚げ、名称、位置、塔の時代、調査の沿革、附近の状況を記して次に其の構造を、台座、塔身、屋蓋（笠部）、相輪に分つて図解細説し、最後に極楽寺と本キリシタン塔との関係に就て考察してある。
昭和三〇、一、著者刊孔判洋仮綴製B五判一六頁非売　（立川）

安部　巌篇
郷　土　叢　書　（別府）

郷土史研究上参考となる資料を編者が逐次B五判半裁型に謄写印刷した仮綴のもので、各篇とも参考記事を附し何れも五〇部限定非売である。

才一編、古川古松軒著　西遊雑記（昭和廿九、四、一、刊、一七頁）
才六編、脇蘭室著　豌海漁談（昭和廿九、五、一、刊、二四頁）
才二一篇（キリシタン史料）別府浜脇両村協議盟約書　（昭和廿九、六、一、刊二五頁
才二二篇　豊陽志所收大友家年中行事（昭和二九、八、一、刊二〇頁）（立川）

工藤祐堂　輯録
郷土研究　人物篇ノ一

原拠が確実で而も郷土に関係のある人物のみを、十時英司著「大神姓関係の史蹟」其他、大友興廃記、及び豊州新報所載「県下先賢遺芳」、或は墓碑等より輯録したもので、大神良臣以下十八氏、並に田中俳壇の人々に就て原拠の文を読解し易い様に普通文に書き改めて編輯してある。
昭和三〇、二、大野町文化財研究会刊、謄写版仮綴B五判五四頁非売　（立川）

宇佐地方史研究会編
宇佐史研究　復刊才二号

故小蟲精一氏によつて通巻一二四号まで発行されて休刊となつた「宇佐史談」が、氏の愛弟子、中能幡能氏によつて「宇佐史研究」と改題されて復活し、その才二号が才廿四巻一号、通巻一二六号として次の内容で発刊された。
「研究」
宇佐仏教と虚空蔵寺。（中野幡能）
八幡神の性格。（樋田並滋）
「報告」
山本遺跡の出土品について（中尾青樹）。宇佐虚空蔵寺に就て（中尾青樹）。宇佐虚空蔵寺に就て（森清太郎）。宇佐町の大石室（樋田並滋）。小野滝胆先生の遺稿—松田源治伝
その一
「会報」
因に本誌は中野氏個人が特に旧師の遺志をつぎ、物心両面、多大の犠牲を払つて刊行していると思われるので旧会員は勿論、同好者多数の入会を望む次才である。年三回発行で会費三百円である。
昭和三〇、五、二〇、宇佐郡史談会刊、並製A五判二八頁会員制　（立川）

臼杵史談会編

臼杵史談　復刊第一号　通巻第四十三号

別項動向欄記載の通り、既刊四十二号で戦争の為め休刊中であつたのが復刊されたもので、巻頭先づ三浦義臣、甲斐文七、今村將三氏の復刊に就てそれぞれの挨拶文があり、次に研究として

久木小野のマンダラ石（久多羅木儀一郎）治水の神と穀物の神、臼杵禹しよく合祀の壇について（山室三良）、稲葉家の柱石土佐守秀通（狭間俊雄）、臼杵最初の洋画家藤雅三（久多羅木儀一郎）、臼杵地方の石造美術品について（高橋長一）、深田石仏と真野の長者（工藤進）を載せ、「資料」欄には郷土史料室目録を、「雑録」には、臼杵石仏を訪れた珍客（狭間俊雄）、第六回史蹟めぐり報告書（高橋長一）、史蹟めぐり俳句（武田秀嶺）が採録されてある

因に本誌は季刊で年四回発行、会員頒布で会費年四百円である。

昭和三〇、五、三〇、臼杵史談会刊、並製A判五五〇頁　（立川）

大分県社会科クラブ編

私たちの大分縣

大分大学附属小学校及び県下小学校社会科の教官を主体とする、大分県小学校社会科クラブの同人が、同学芸学部、兼子、半田両教授の協力を得て、社会科教育最新の思潮を汲み、地域の具体的資料を基調とした編著で、実に時宜に適した好著作である。

県下各学校とも即時採用の上、之を有効適切に活用されるならば、県下教育進展の為め資するところ大なるものがあると思う。

因に既刊は五、六学年各一冊宛で三、四年用各冊は近刊の由。

尚本書各巻とも県民常識養成の公民読本として、全家庭必備の書とし、P・T・Aはそれぞれの立場で通読研究する必要があると考えられる。　（立川）

昭和三〇、七、一〇、弘学社刊並製A五判五年用八五頁六年用七六頁各五〇円

安部　巌編

郷土叢書 12 豊後国図田帳（正保本）

正保四乙亥年七月廿二日書写と奥書ある書写本を底本とし、既刊各種の豊後国図田帳を校合して五〇部限定で謄写印刷に附したもので、巻末に参考として既刊本図田帳各種の解題がある。

昭和二九、一〇、一　別府史談会刊、仮綴半紙半裁判四二頁非売　（立川）

十時英司編

はなし　第二巻第三号

本号に収録されているものは、十時氏の『ほうそうの神様。流れ星（旧家に思ふ）。源吾兵衛ぢいさん』の三編と、岡部南豊氏の『弟坊の滝。河童の祠。子授大明神。晒掃社縁起。いかづち山と戸次道雪』の五編で、十時氏大神姓系図を附してある。何れも居村で拾つたもので、地方色豊かな珠玉である。

昭和三〇、五、一、大野町公民館民俗資料調査部刊仮綴製B五判二七頁非売　謄写刷

速見郡文化財調査委員会編

速見地方文化財調査報告書　第一集

昨年発刊した速見郡文化財調査目録第一集に採録せるものの中より、更に各筆者が各自の専門的立場より研究せるものを左の題下に

集録してある。

立石初代藩主木下延由公は秀頼の一子国松であるとの説について　伊東　継司

大神比義の土仏　志手　環

仁聞の入定した華厳洞　志手　環

常念仏並曼陀羅　土居　寛申

七双司古墳に就いて　入江　英親

宝福寺薬師如来像について　岩尾　純勝

木下俊長の事跡　森永　源一

文久三年異船に対する日出藩の配備及内分風説録　森本　白華

国、県指定速見郡地方文化財一覧表

昭和三〇、七、杵築市速見郡地教委連絡協議会刊、洋並製A五判本文七八頁図版五葉、非売　（立川）

賀川光夫著

豊前中津市相原廃寺調査報告

山国川下流域に奈良朝以前の寺院址の存在すると云うことだけは、辻・石田両博士によつて既に紹介さていたが、当相原廃寺に就ては何等よるべき資料文献がなく、極めてあいまいな推定をされていた。然るに昭和廿六年中津市吉田良介氏によつて調査され、その概様を知り之れを確認されたので、廿九年十月中津市教育委員会では賀川氏に依頼し、地元の山本、吉田、小田、佐藤、今泉の諸氏が協力して細密調査を行つた結果を刊行したものが本書で、次の各項に分けて記述してある。

才一章　、序説才二章歴史考古学上より見た上代の豊前平野、才一節豊前平野、才二節奈良朝以後の寺院址、才三章相原廃寺。才四章遺物、才五章相原廃寺建立の時期に関する一考察。

因に挿入図版十三がある。

昭和三〇、六、三〇、中津市教育委員会刊仮綴A五判二一頁、非売　（立川）

動向

一、教聖広瀬淡窓の壱百年祭と門下生の慰霊祭　（立川）

水郷日田が生んだ教聖広瀬淡窓先生逝いて既に百年、先生の残された偉大な業績は歳と共に愈々輝き、その高潔なる人格は世人の仰慕措く能はざる所となつて、今も残る咸宜園の塾址を訪問する識者は、あとをたゝない。

先生は専ら教育の道に精進すること、実に五十有余年の長きに及び、其の間、全国各地から笈を負うてこの私塾に集る者、参千八百有余名に及び、門下生からは、高野長英、大村益次郎、長三州、平野五岳、赤松蓮城等々幾多の俊英を出している。

昭和廿四年六月、天皇陛下九州行幸の砌、特に咸宜園址に立寄られ、先生始め広瀬八賢の遺著を御覧になつて、御感殊の外深く、関係者一同に「先哲の遺業を永く伝え、社会教育につとめるよう」との御言葉を賜つたのである。

来る十一月一日は正に先生の百回忌を迎えるので、地元日田市では淡窓会を設立して市長を会長とし、この忌辰をトして先生の百年祭並に門下生の慰霊祭を盛大に虔修してその遺徳顕彰と、郷土文教の興隆に資するため、左記の行事を計畫し、着々準備を進めている。

因に目下調査中の門下生に就て調査もれの者があればその通名、身分、歿年月日、享年墓所、菩提寺、その行蹟、並に縁故者に就てその氏名、関係、身分、職業、現住所等を日田市淡窓会宛通知下さることを主催者では望んでいる。